

患者とともにある全人的医療

院長 年頭のあいさつ

上手な市民病院のかかり方



院長 小池 哲雄

明けましておめでとうございます。今ひとつ日本全体が元気がなく、次代を担う若人が高校、大学を卒業しても就職先がないような淋しい状況が続いておりますが、皆さんやご家族にとって本年がより良い一年でありますようお願いいたします。

当院は当地鐘木に移転をして早くも4回目の新年を迎えました。このところ徐々に皆さんに当院の診療システムを理解していただき、使い勝手の良い面も若干評価されるようになったように思います。更に皆さんのご意見を伺いながら、職員一同で工夫・改善を加えてまいります。それでも尚、外来診察を希望される皆さんの中にはそのシステム（特に紹介状を必要とする不親切な診療科の存在！？）について戸惑いと不満があるようです。そこで本紙面を借りて現在の事情を説明させてもらい、少しでも当院の立場をご理解いただきたいと思います。

限りある医療施設、人材を有効に利用するためには、様々な医療施設が地域の中でその役割を分担して果たすことが必要です。そのような中で当院は、新潟地域の重症・救命救急・周産期医療を担う基幹病院であることは皆さんもご存じのことと思います。そのために当院の力を有効に使うために《かかりつけ医》を支援する病院となり、紹介患者さんや救急患者さんを優先する診療を行うことが必要となっています。そんな中で一般外来は、円滑な診療や待ち時間短縮を図るために基本的に予約制としていただくことをご理解いただきたいと思います。多くの方々には認識されていますが、以下のように外来受診システムで運用していますので、より一層理解をいただくため、分かり易く箇条書きにしてみました。

1. 診察を希望される方は、前もって予約センター(025-281-6600)で予約を取って下さい。かかりつけ医のいる方は、できるだけその先生より紹介状を書いてもらって、来院してください。
2. 予約をしないで、当日診察を希望する方は、外来の受付機で当日予約をしてください。希望される診療科の医師が手術や検査等のため、（診療を急がなければならない病状の場合にはその限りではありませんが、）当日診察できない時があります。ご了解ください。
3. 皆さんにとって、かかりつけ医師からの《F a x 事前予約》経由での受診が一番便利です。その時には、皆さんは予約を取る必要もありません。かかりつけの先生が予約手続きをしてくれますので、遠慮なくその先生にご相談ください。市内の多くの診療所・病院が当市民病院と“かかりつけ医・病院の契約”をしています。皆さんのお住まいに近いかかりつけの医院・病院をお知りになりたい時には病院職員にお尋ね下さい。
4. 申し訳ありませんが、整形外科、産科・婦人科、内分泌代謝内科、耳鼻いんこう科（新たに1月より）の診療を希望する患者さんは、諸般の事情により救急・重症者をのぞき、紹介状を持参した患者さんのみとなります。（これらは当院のみで勝手に決めたことではなく、大学病院の上記診療科と新潟地区の各診療科との相談の上、そのようにしています。）もし紹介状を持たずに上記の診療科を受診された場合には、総合案内にご相談ください。
5. 急に具合が悪くなった方には、急患外来では24時間365日無休で対応していますが、まず電話(025-281-5151)交換手に「急患外来につないで」としてそこの担当者（看護師・医師）に病状を伝えて相談することをお勧めします。診療が必要と思われる時には当然皆さんを診察いたしますが、お聞きした状況で当院よりは、むしろ新潟市急患診療センター（025-246-1199）や他院への受診が適切と判断した場合、そちらの受診をお勧めすることもあります。

以上今後とも、できる限り皆さんの利用しやすい病院を目指して参りますが、当院の新潟地域での役割もご理解頂き、上手にお付き合い、ご利用をいただければと思います。よろしく願いいたします。





1) はじめに

今回は胃がんの外科治療の過去・現在・未来について少し述べさせていただきます。気楽に読んでいただければ幸いです。

2) 胃がんの現状

2009年現在、胃がんは男女ともにがんの死亡者数では肺がんに次いで第2位です。以前は、胃がんが第1位でしたが、肺がんの急激な増加と胃がんの治療成績の向上により第2位となりました。頻度で示すと、男性は9人に1人が、女性は18人に1人が胃がん罹患します。また地域差があり、北関東、東北、北陸が特に胃がんの罹患率が高くなっています。ちなみに欧米では大腸がんが多く、胃がんは極めて稀です。

3) 過去の胃がん外科治療—拡大手術の時代 (1990年頃まで)—

胃がんの外科治療は全身麻酔の成功とともに始まりました。1846年にエーテルによる全身麻酔が可能となり、世界初の胃がん切除が1881年にドイツのビルロートにより行われました。日本では1897年に近藤繁次(東京大学)が成功しています。その50年後の1950年に世界初の胃カメラが日本のオリオンカメラ(現オリンパス)により開発され、胃がんの診断が格段に飛躍しました。その後、麻酔・抗生物質の進歩により手術が安全に行われるようになりました。そして、1990年頃までは胃がんは手術によって、できるだけ大きく病変を切除し、リンパ節をたくさん取ればとるほど治りやすいと考えられていました。このため、進行胃がんでは胃切除だけでなく予防的に広範囲のリンパ節、他臓器(脾・膵など)を切除していました。しかし、このような症例が数多く集められ治療成績を検討したところ、拡大手術ではがんの治癒率は思ったほど上昇しないこと、早期胃がんの一部ではリンパ節転移がないこと、また広範に切除することにより腹痛・腸閉塞・下痢などの症状も増加することがわかってきました。

4) 現在の胃がん外科治療—体にやさしい手術へ (1990年頃～現在)—

過去の外科治療を反省し、現在の胃がん外科治療では「必要以上に切除しない」「抗癌剤と手術治療を組み合わせる」「内視鏡・腹腔鏡手術による体にやさしい手術」が行われるようになりました。胃がんの転移しやすいリンパ節が明らかになり重点的にそれらのリンパ節だけを切除するようになりました。また、抗癌剤と手術を組み合わせることにより目に見えない



開腹胃がん手術

腹腔鏡胃がん手術

写真1

小さな転移を消滅させ、切除できないような進行がんを小さくしてから切除することも可能になってきました。内視鏡・腹腔鏡手術によりできるだけ傷が小さく、痛

みの少ない、手術も可能になっています。従来の開腹手術では、胃切除はみぞおちからへそまでの切開が必要ですが、腹腔鏡の手術では1~2cmの傷が5つで可能となっています(写真1)。胃がんの転移の特徴を細かく分析し、胃がん手術が大きく変化した時代といえます。

5) 未来の胃がん外科治療—ロボット手術の到来— (もう始まっています)

現在の胃がん外科治療は麻酔や・抗生物質の進歩により安全に手術が可能になり、またできるだけ体にやさしい手術が行われるようになってきました。さらに早期胃がんの段階での発見も増えました。これらにより胃がんの治癒率は飛躍的に向上しました。しかし、決して、外科医の腕がよくなったの

ではなく、外科医(人間)の眼と手は以前と同じはずですが、1999年に外科医の眼と手を超える医療用ロボットがアメリカで開発され、ダビンチと名

写真2



手術支援ロボット「ダビンチ」

付けられました(写真2)。2009年11月から日本でも医療機械としての認可がおりました。ロボットという外科医の代わりに手術をする機械と考える方も多いと思います。しかし、ダビンチは外科医がTV画面をみながら外科医が操作します。極めて画質の良い拡大された3DのTV画面をみながら外科医の手よりももっと繊細で細かい操作が可能で、手術操作の難しかった部分でもまるで手元にあるような手術操作が可能です。現在、世界で1700台が稼働していますが、その大部分はアメリカとヨーロッパです(アメリカでは前立腺がんの手術の8割がダビンチで行われています)。アジアでは韓国が30台を保有していますが日本ではまだ16台であり、この分野では日本は世界の後進国となっています。この原因は一台3億円(新潟市民一人当たり394円)という高額医療機器であること、導入に際してはきびしい多くの条件が必要であるためです。幸い、新潟市民病院では条件をすべて満たしており、あとは予算がつけばいつでも導入可能な状態となっています。今後の胃がん外科治療をふくめた多くの手術治療(心臓・脳・その他)はロボット手術を中心にした、より体にやさしく、早期の社会復帰を可能にする治療になっていくと思われま

6) まとめ

胃がんの外科治療の歴史と近未来について簡単に述べさせていただきました。胃がん外科治療は、どんどん進歩しています。特にこの10年での進歩は大きく胃がんも「治るがん」の仲間入りをしました。新潟市民病院では、日進月歩の治療技術を先取りして患者さんの治療を行っています。今後は、ロボット手術の準備をしていく予定です。

院内の気になる樹

総務課 勝又 契

VOL.4 旧市民病院から移植した樹木を紹介します。

トウカエデ 等楓 カエデ科

中国原産で江戸時代に渡来

生長が早く、街路樹や公園樹として利用されます。都市部で身近に見られるカエデの代表種で、日当たりの良い所では鮮やかな赤や橙色など多様に紅葉します。耐寒性に優れ、煙害や大気汚染にも強いようです。



葉はカエルの手のように3つに分かれています。

イチョウ 銀杏

イチョウ科

代表的な街路樹として人気！

中国原産で日当たりを好み、耐乾性・耐火性に優れています。黄葉は見事で、雌雄異株です。雌木にたわわに生る実は秋の味覚「ギンナン」として美味しく食されます。

大気汚染にも強い！



見ても食べても楽しめる樹木！

ケヤキ 欒 ニレ科

街路樹・公園樹としてお馴染み！

自然樹形は端正で、クジャクが尾を開き始めたような大らかな姿です。落ち葉は良質の肥料(腐葉土)となり、木材としても広く利用されています。春の新緑・夏の木陰・秋の紅葉(赤・橙・黄と多彩な紅葉が美しいです)・冬のキレイな樹木形、そしてケヤキ通りのイルミネーションなど1年中楽しめる樹です。



寿命の長い木で、各地に巨樹が在ります。



ナンキンハゼ 南京櫨 トウダイグサ科

中国原産で公園樹・街路樹として人気！

日当たりを好む暖地性の陽樹で、新潟はほぼ北限にあたるようです。秋には赤・黄・緑のグラデーションに美しく紅葉する樹として有名です。ハゼノキのように種からロウ質を採った事が名前の由来と云われています。



冬の北風に揺れる清楚な白い果実。



「がんカウンセリングの紹介」

「がん（悪性腫瘍）」と診断された患者さんで、診断の結果や治療方針等について、もっとゆっくりと時間をかけて説明を聞きたい方に対し、カウンセリング担当医師と看護師がご説明等いたします。

カウンセリングをご希望の方は、予約制ですので主治医等にご相談ください。

- 時 間 : 60分以内
- 費 用 : 有料（詳しくは、がん相談支援センターまで）
- 場 所 : 病棟カンファレンス室または外来1階 相談室101号室



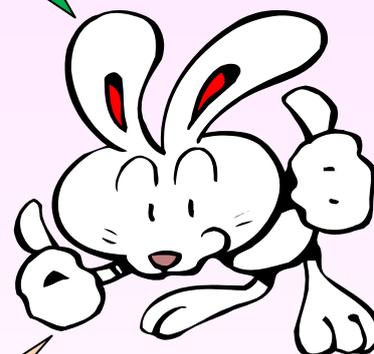
*外来通院をしている方でがん患者カウンセリングをご希望の方は、**がん相談支援センター**（外来1階 医事カウンター脇の通路奥）にご連絡ください。

【がん相談支援センター】



ご相談お待ちしております。

医療相談員によるがん相談（無料）もお気軽にご利用ください。



今年もよろしくお祈りします

外来1階 医事カウンター脇通路
【電話番号】 025-281-5151（代表）



市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463番地7

電話 025 (281) 5151(すばやい受診来い来い)

Fax 025 (281) 5187



編集後記

風が強く敷地も広い市民病院で、困るのは近年の豪雪です。气象台も予測できない未明の大雪には、除雪部隊もひと苦労。多くの職員が病院を支え、皆さんに暖かい医療が提供できるよう努めています。

(H. N.)